



# あすぴあ 通信



こども食堂の現状と課題

湯浅誠さん  
講演会

## ~安全・安心！ こども食堂の輪を広げよう～

1月 12日（土） 小平元気村おがわ東第二会議室



会場いっぱい、満員の会議室、湯浅誠さんの話に熱い思いが感じられ、参加した市民のみなさんは、「いい話を聞いた！」という表情をされていました。

湯浅さんによれば、子ども食堂の始まりは世田谷区の近藤博子さんが始めた「きまぐれ八百屋だんだん」。近藤さんは「子どもが一人でも安心して来られる食堂」を創られたのです。子どもが一人でふらっと行ける、無料か低価格で利用できる場所は、それまでなかったのです。

その後、子ども食堂は増えて、昨年4月には2,286カ所になりました。しかし、湯浅さんは「子どもがふらっと行けるのはせいぜい小学校区」と考え、「全国の小学校区に1カ所、子ども食堂があるといい」と話されました。全国の小学校の数は2万近くですから、子ど

発行：小平市民活動支援センター あすぴあ

1面：湯浅 誠さん講演会報告

2～3面：西東京市市民協働推進センター訪問記  
あすぴあ登録団体&市民活動団体紹介

4面：イベント・講座報告 ほか

も食堂は未だ 11.5%にしかありません。小平市内でも子ども食堂は 6 カ所です（平成 31 年 1 月に発行された『第 3 版 居場所ハンドブック』による）。

子ども食堂づくりが始まった背景に、子どもの貧困があります。湯浅さんによれば、子どもの 7 人に 1 人は相対的貧困状態にあるのですが、そんな子どもがそんなにいることを実感している大人は多くいません。たとえば、修学旅行に行けない子どもが事前学習から振り返り学習まで参加しなければならないことで、とてもつらい思いをしていることを知らない人が多いのです。

こんな子どもたちが来て、ほっと、くつろげる場所をつくろう、というのが子ども食堂づくりなのです。悩んでいる子どもが不登校にならないようにするには、同じ地域で暮らす大人と子どもの協力が必要です。それを理解して活動することの大切さを湯浅さんは話されました。子ども食堂は、正に地域に住む人たち、子どもたちが交流する拠点なのです。

